

図書館通い

退職して2年と2ヶ月。早いものだ。こうして毎朝4時頃に起きて、レポートを書くようになって1年8ヶ月。よく続くものだ、と我ながら感心する。

昨年、目の手術で再び2週間ほど入院したが、それ以外は「気楽ながら、それなりに充実した生活」を送っている。それも「図書館通い」のおかげだ。都合のつくかぎり、自宅から近く、利用しやすい名古屋大学の中央図書館を利用させてもらっている。

退職後しばらく、自宅で本を読んだりしていた。長年、大学の研究室を「ベース」にしてきたので、自宅で1日中過ごすのは、どうもペースをつかめない。近所の図書館に行ったが、ゆったりできない。いろいろ探し、名大図書館に「居場所」を見つけることができ、2年あまり通っている。平日は朝8時から開館しているので、それに合わせて自宅を出る。本山まで地下鉄で行き、そこから四谷通の坂道を歩く。途中、桃巖寺に立ち寄り、しばしの休憩も。図書館には開館と同時に入ることが多い。名大生だけでなく、私のような学外者の「常連さん」も開館前から並んでいる。

図書館に入り、めざすは4階である。ここは研究用図書が並んでいるが、窓際には研究用コーナーが設けられている。いつも利用するのが、写真の「準個室」である。学内者には、正式の「研究個室」が利用できる。こちらは鍵もかけられ、個室気分を味わえそうだ。羨ましいが、学費を納めていない学外者には、しかたがない。



私が勝手に「準個室」と名づけたが、愛用のコーナーは、壁などに囲まれ「角部屋」のような感じで落ち着ける。電源もあり、iPadをじっくり眺め、論文も書ける。「研究個室」



「準個室」とも、よく利用されている。あとから来る学生さんは悪い気もするが、午後には利用できない場合も多い。

ここで、朝から夕方近くまで、どっぷり本を読み、原稿を書く。帰りには、本山生協などで買い物をする人が多い。昼食は「北部生協」を利用して、「和風定食」などを食べる。ここも「常連さん」となった。昼になると生協は盛況になるので、早めの昼食をとる。きちんと歯を磨いて、午後の時間を迎える。

ざっと、こんな図書館通い生活だ。こうした気楽で、それなりに充実した生活がいつまで続けられるだろうか。これも人生のめぐり合わせだろうか。せっかくの機会なので、大切に活用していきたい。

(2016年6月1日)